

一般社団法人川崎市観光協会 令和元年度事業報告

令和元年度は平成から令和へと元号も変わった大きな節目の年となりました。この間、ラグビーワールドカップ2019日本大会の開催により、出場国が含まれる欧米豪市場の訪日外客数が増えたことなど訪日外国人は増加傾向にありましたが、年度後半からの韓国市場の急激な減速に加えて新型コロナウイルス感染症の世界的な広がりによって、観光業界には大きな試練の年となってしまいました。しかしながら、2019年全体での訪日外客数は、前年比2.2%増の3,188万2千人で、統計を取り始めた1964年以降、最多となり、韓国を除く19市場で過去最高を記録しております。

観光業界には大変厳しい状況にありますが、平成28(2016)年2月に川崎市から公表されました「新・観光振興プラン」において「観光は産業振興の重要な施策」として、民間活力による観光振興により「賑わいのある、元気な街」を取り戻すとの方針のもと、令和元年度において当協会は、多摩川花火大会や産業観光など川崎市行政とともに事業を推進し、また、各地区観光協会が行う観光事業への連携・協力、各種団体などが行う街歩きやイベント等の事業実施に対する支援などにより集客の拡大を図りました。さらに、観光に関わる関係団体や民間事業者との連携により、「観光都市かわさき」の進展に向け、各種の施策を推進することができました。

I 各種の観光事業を推進する。

1 川崎市制記念多摩川花火大会の開催

川崎市が県下3番目の市に移行したことを記念し、川崎の夏の風物詩として定着していました「川崎市制記念多摩川花火大会」は、今年度も絶好の花火日和のなか昨年より3万人以上多い観客を集めて盛大に開催することができました。



- (1) 主催 川崎市・川崎市観光協会・高津観光協会
- (2) 主管 神奈川新聞社
- (3) 日時 10月5日(土) 午後6時から
- (4) 会場 高津区多摩川河川敷(第三京浜道路と二子橋間の河川敷)
- (5) 花火総数 約6,000発
- (6) 入場者数 222,000人(30年度 185,000人)

2 地区観光協会との連携による観光事業の推進

市内の地区観光協会と連携し、地域発の観光事業を進め、また、地区観光協会が地元のガイド団体と共同して取り組む観光関連事業に対して、適切な支援策を講じ、各地区観光協会との連携・協力の強化を図りました。

(1) 「多摩区・麻生区観光協会事業支援」

多摩区観光協会が参加して開催されている第4回「食の祭典 in 生田緑地」や麻生区観光協会が開催している「歴史探訪バスツアー」について後援し、一部経費の助成を行いました。

(2) 第35回住吉さくら祭への支援

住吉観光協会が主催する「住吉さくら祭」に対して後援し、助成を行いました。

(3) 丸子多摩川観光協会への支援

毎年秋に開催されておりました「丸子の渡し祭り」は台風19号による被害により、残念ながら中止となりましたが、第13回新丸子阿波おどりは11月3日に盛大に開催され、後援・助成を行いました。



(4) 市内菊花展、菊花大会に対する支援

川崎区稲毛公園で10月27日(日)から11月17日(日)まで、第67回の「関東川崎菊花大会」に主催者団体として参画し、開催しました。

あわせて、川崎大師観光協会をはじめ地区観光協会が主催して開催する菊花展や菊花大会についても、支援・協力を行いました。

(5) 川崎市中央観光協会への助成

川崎を代表するカワサキハロウィンでの来訪者の回遊性向上に向けた「トリックオアトリート」のマップ作製に対して助成を行いました。

(6) その他関係団体等への協賛、助成

川崎市長杯還暦・古希軟式野球大会、川崎港トライアスロン大会、川崎美術協会展、きもの文化活動「歴史へのご招待」等への後援、助成を行いました。

3 観光関連ガイド団体との連携による観光事業の推進

(1) 川崎市ガイド団体連絡協議会の運営

川崎市ガイド団体連絡協議会の運営事務局として、9月12日(木)にエッポック中原で総会を開催し、川崎市の観光政策について川崎市経済労働局観光プロモーション推進課鈴木課長の講演、参加団体相互の情報交換などを行い、ガイドのレベル向上や観光ガイド情報の交流機会を提供しました。



(2) ガイド団体活動への支援

市内ガイド団体の概要やガイドルートなどの記事を協会ホームページの観光ガイド団体サイトに掲載し、ガイド活動内容を広くPRすることにより、利用者の利便性を高めるよう努めました。

また、各ガイド団体が主催して行う観光イベントについてもホームページで紹介し、活動を支援しました。

4 観光事業・イベントなどへの後援、協賛

市内の各種団体が市内で開催する観光イベント等に対して、後援や協賛を行い、また、協会の媒体を通じて市内外へのPRを行いました。

また、市内に立地する法人が市内で開催する事業についても、観光情報コーナーでの案内チラシの配架などに協力し、市の内外からの観光客の誘致を図りました。

5 産業観光の推進

川崎産業観光振興協議会(学識経験者、関係企業、団体、行政で構成)と連携し、産業観光の推進に取り組みました。

(1) 産業観光バスツアーや工場夜景クルーズ事業など定期観光ツアーの実施に協力し、また、地元企業の協力をいただき、新規ツアーの開発に取り組みました。

- 定期観光ツアーは、はとバスバスツアーは50回開催、延べ1,740人参加、屋形船クルーズは35回開催、延べ1,327人参加
- 産業観光ツアーとして5回開催、130人参加
- 工場夜景9周年を記念して大型船クルーズを5日間開催し、延べ180人が参加
- ジャズの生演奏を聴きながら工場夜景を楽しむ「ジャズクルーズ」を5日間開催、603名参加
- 企業・学校・団体などによるバス、屋形船による工場夜景チャーターツアーを21回開催、延べ572人参加



撮影ツアーの様子

(2) 産業観光のPR、他都市との連携を図り、産業観光のマーケットの拡大に努めました。

(3) 産業観光ガイドの養成として3年ぶりに川崎検定合格者を対象に「第8回ガイド養成講座」を開催しました。

(4) 北海道、中国、九州、関西地方の大手旅行代理店42社を訪問し、川崎市への修学旅行誘致PRを行いました。



ガイド養成講座の様子

II 観光情報の効果的な提供を行う。

1 観光情報発信機能の拡充

協会ホームページ「川崎日和り」の適切な運用を図り、外国語観光情報サイト「Discover Kawasaki」（英語・中国語・韓国語）の記事について、インターネットを利用した市内観光情報の発信に努めました。

2 情報発信に向けた関連団体等との協力

川崎市、川崎商工会議所、民間関連団体の協力を得て、食事、宿泊、行楽など各種の観光情報について、最新の情報提供に努めました。

3 川崎駅北口行政サービス施設「かわさききたテラス」の運営

川崎市内の観光情報等を提供するため、観光案内所の運営を川崎市と共同して実施しました。また、観光案内情報やイベント情報の提供を行う観光情報コーナー、観光情報スポットの運営も行いました。



なお、JR川崎駅北口自由通路に合わせて整備された川崎駅北口行政サービス施設内の観光案内機能とかわさき名産品等の販売機能を備えた観光案内所の設置及び運営について関係者との協議を進め、昨年度から運営を開始しております。

(1) 観光案内所

- ・場 所 川崎駅北口行政サービス施設「かわさききたテラス」内
- ・運営時間 平日：9時から20時まで
土・日・休日：9時から19時まで

- ・運営体制 常時2名以上（英語・中国語対応可）
- ・運営日 原則として年中無休
- ・従事者 川崎市との契約による人材派遣会社の派遣職員

(2) 観光情報コーナー

- ・場所 JR川崎駅東西自由通路内
- ・運営時間 8時から21時まで
- ・運営体制 無人
- ・運営日 年中無休



4 観光案内所などの外国語対応

外国人観光客に対する観光案内環境の整備について、川崎市による観光案内所の移転に合わせ、英語及び中国語で対応できる従事員（コンシェルジュ）が配置されました。

また、観光案内所や観光情報コーナーに、英語版及び中国語簡体字版の観光ガイドブック「川崎日和り」、英語・中国語・韓国語・タイ語の多言語版の観光パンフレット「Travel Guidebook」を配架するなど、外国語の観光案内情報の提供を行いました。



5 情報誌と連携した広報活動

外部の観光情報誌への掲載によるPRを促進するため、川崎の観光情報や写真の提供を行いました。

6 川崎のお土産品の情報提供

(1) 「かわさき名産品」認定品の普及・宣伝

かわさき名産品認定事業実行委員会（川崎市、川崎商工会議所、川崎市観光協会、関係団体で構成）が認定した「かわさき名産品」の知名度を高め、販路の拡大に結びつくよう、かわさき北テラスでの受託販売、イベント会場での展示販売を行いました。



(2) 地元のお土産品の情報提供

川崎の歴史や産業と結びついた川崎のお土産品について、観光産業の振興に向けて、問い合わせへの優先紹介などを行い、普及・宣伝に努めました。

(3) 川崎大師のお土産情報

年間1千万人を超える参詣客が訪れる川崎大師界隈のお土産品についても、若い世代を含めた新しい来街者の増加につながるよう情報提供に努めました。

III 観光誘客事業を強化する。

1 市外からの観光誘客作戦の展開

神奈川県観光協会が開催しています「県外キャンペーン」事業に協賛、協力し、「東京丸の内観光展」や「名古屋観光展と観光キャラバン」「横浜駅東口新都市プラザ・観光キャンペーン」で観光ガイドブック「川崎日和」や多摩川花火大会「手ぬぐい」を配布して、川崎への観光客の誘致に努めました。

また、公益財団法人日本観光振興協会主催の第16回都道府県・政令指定都市観

光協会（連盟）会長等会議に出席し全国の先進的な取組に対して意見交換等を行いました。

同時開催されておりました「ツーリズム EXPO ジャパン」（旅博・旅行博）の視察を行い今後の参考としました。

（10月24日～27日、インテックス大阪（大阪市住之江区））

2 国内・海外都市との観光交流事業の推進

川崎の魅力を発信し、市民の観光交流を促進するため、鳥取県米子市、富山県氷見市、観光情報の提供や観光イベント事業への参加など観光交流を行いました。

また、川崎市との事業連携締結自治体である大田区との観光分野での交流・連携事業を進める「大田区・川崎市観光まちづくり連携事業実行委員会」に参加し、両地域の観光スポットを巡るツアーの共同実施や観光関連商品の普及宣伝などの協力を行いました。

3 第63回川崎市観光写真コンクールの開催

「観光のまち・かわさき」の宣伝素材として活用するため、公募による観光写真コンクールを川崎市から受託し、実施しました。

また、コンクールの広報を兼ねて、令和元年度の受賞作品の巡回展示を行いました。

・作品募集期間

令和元年11月～令和2年1月の3か月間

（一般の部185名、448点（昨年191名、473点）、児童・生徒の部37名、75点（昨年31名、73点））

・作品巡回展示 6月（東海道かわさき宿交流館）、 11月（かわさき市民祭り会場）の2回



4 「東海道かわさき宿交流館」の指定管理業務

第2期指定管理として引き続き交流館館長に加え副館長も当協会から派遣すると共に同館の自主事業の企画・実施も行い、館内物販コーナーの商品管理等の業務は交流館に移管するなど、業務分担等の見直しも行いました。

5 伝統的な日本文化振興への取組み

(1) 第44回「川崎大師薪能」については、主催者として同実行委員会に参加して、5月24日（金）川崎大師平間寺境内特設舞台で開催しました。来場された約530人の方がたが、篝火に浮かぶ能の舞台を堪能されました。

(2) 「きもの・で・街歩き」など、日本の伝統文化の継承・発展に結びつくよう努めました。



6 外国人観光客の誘致

訪日外国人観光客の誘致について、川崎市や市内の経済団体等により「川崎インバウンド等誘客推進協議会」が発足し、当協会は川崎港振興協会とともに事務局を

担っております。東京オリンピック・パラリンピックの開催を控え、川崎港へのクルーズ船（ホテルシップ）の誘致や、内外からの観戦者の川崎市内への受入れ等を官民の協働により検討、実施することとしています。

IV 適正な法人運営に努める。

1 事務事業の再構築と財政基盤の強化

(1) 事務事業の見直し

観光人材の育成、観光資源の発掘、産業観光の商品化等の観光課題、訪日観光客に対応する基盤整備など条件整備について検討を進めました。

(2) 自主財源の拡充

前年度に比べ、広告料、産業観光等の企画監修料など自主財源は若干増収とはなっているものの、全体としては減収していることから新たな財源が課題となりました。

(3) 会員の加入促進

協会ホームページバナー広告の割引などとともに、法人会員が実施するイベント事業への協賛、問い合わせに対する優先紹介を行うなどの会員サービスを行い、会員数の増加に努めました。

2 法人会議の開催

(1) 社員総会の開催

6月20日（木）にフロンティアビル2階会議室において定時社員総会を開催し、平成30年度の事業及び決算報告等について審議いただき、承認をいただきました。

また、任期満了に伴う役員を選任が行われ、斎藤会長、大島副会長、鏑木副会長他原案とおりに承認されました。



(2) 理事会の開催

5月30日（木）、3月5日（木）に理事会を開催し、社員総会の開催等に向けて、提出議案等の審議、決議等を行いました。

(3) 監事監査への協力

4月25日（木）に川崎市産業振興会館において、両監事による平成30年度の事業内容及び会計に関する監査を行っていただき、いずれも適正であるとの報告をいただきました。

3 予算要望活動の実施

地区観光協会等の要望を取りまとめたうえ、川崎市議会各会派（自民党、公明党、みらい）へ予算要望を行いました。

● 主な要望事項

- ・ 市政100周年記念事業花火大会の開催について
- ・ 川崎港ホテルシップ誘致について
- ・ 御幸公園の魅力向上について
- ・ 橘地区の歴史的資源の利活用について 他



4 大都市観光協会連絡協議会への参加等

東京都及び政令指定都市の観光協会やコンベンション協会等の法人で構成する「大都市観光協会連絡協議会」に引き続き参加し、観光課題への対応や協会の組織運営などについて当協会の事務局運営に反映するよう努めました。

また、公益財団法人日本観光振興協会から観光事例や観光情報を収集し、協会事業の立案等への活用に努めました。

正味財産増減計算書

2019年04月01日から 2020年03月31日まで

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益			
特定資産受取利息	49	99	▲50
特定資産運用益計	49	99	▲50
受取会費			
正会員受取会費	1,012,000	1,018,000	▲6,000
受取会費計	1,012,000	1,018,000	▲6,000
事業収益			
観光写真コンクール受託収益	677,000	677,000	0
外国語観光情報発信・案内受託収益	533,740	895,383	▲361,643
観光パンフレット等作成受託収益	6,609,260	6,604,461	4,799
広告料収益	101,000	109,000	▲8,000
産業観光企画監修等収益	3,446,824	3,676,698	▲229,874
事業収益計	11,367,824	11,962,542	▲594,718
受取補助金等			
受取地方公共団体補助金	19,222,000	19,222,000	0
受取補助金等計	19,222,000	19,222,000	0
受取負担金			
受取負担金	89,983,000	93,562,744	▲3,579,744
受取負担金計	89,983,000	93,562,744	▲3,579,744
受取寄付金			
受取寄付金	14,797,207	14,759,676	37,531
受取寄付金計	14,797,207	14,759,676	37,531
雑収益			
受取利息	677	382	295
雑収益	1,374,646	1,527,964	▲153,318
雑収益計	1,375,323	1,528,346	▲153,023
経常収益計	137,757,403	142,053,407	▲4,296,004
(2) 経常費用			
事業費			
給与手当	10,322,630	7,372,405	2,950,225
臨時雇賃金	319,339	915,643	▲596,304
福利厚生費	1,017,187	986,399	30,788
旅費交通費	351,483	412,114	▲60,631
通信運搬費	301,004	326,794	▲25,790
消耗品費	109,277	127,364	▲18,087
印刷製本費	74,465	123,390	▲48,925
光熱水料費	52,476	55,487	▲3,011
賃借料	169,089	192,038	▲22,949
交際費	1,080	8,306	▲7,226
会議費	0	33,600	▲33,600
保険料	1,676,890	1,576,290	100,600
諸謝金	104,500	203,500	▲99,000
租税公課	94,007	85,814	8,193
支払手数料	55,322	36,936	18,386
支払負担金	275,326	405,600	▲130,274
支払助成金	1,390,500	1,605,979	▲215,479
支払寄附金	140,000	190,000	▲50,000
委託費	103,533,519	105,518,651	▲1,985,132
雑費	692,800	729,246	▲36,446
事業費計	120,680,894	120,905,556	▲224,662

正味財産増減計算書

2019年04月01日から 2020年03月31日まで

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増減
管理費			
役員報酬	6,094,000	6,413,000	▲319,000
給与手当	2,740,904	8,542,319	▲5,801,415
臨時雇賃金	63,911	630,357	▲566,446
福利厚生費	1,195,975	1,025,269	170,706
旅費交通費	627,529	658,382	▲30,853
通信運搬費	348,170	514,476	▲166,306
消耗什器備品費	0	134,676	▲134,676
消耗品費	134,816	347,336	▲212,520
印刷製本費	31,799	232,956	▲201,157
光熱水料費	50,748	53,964	▲3,216
賃借料	2,366,317	2,065,652	300,665
交際費	339,750	583,960	▲244,210
会議費	170,552	118,695	51,857
租税公課	254,551	302,705	▲48,154
図書費	63,166	44,668	18,498
支払会費	426,000	238,000	188,000
支払手数料	115,335	137,327	▲21,992
委託費	689,460	573,102	116,358
雑費	768,396	332,466	435,930
管理費計	16,481,379	22,949,310	▲6,467,931
経常費用計	137,162,273	143,854,866	▲6,692,593
評価損益等調整前当期経常増減額	595,130	▲1,801,459	2,396,589
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	595,130	▲1,801,459	2,396,589
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	595,130	▲1,801,459	2,396,589
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000	0
当期一般正味財産増減額	525,130	▲1,871,459	2,396,589
一般正味財産期首残高	9,274,858	11,146,317	▲1,871,459
一般正味財産期末残高	9,799,988	9,274,858	525,130
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	9,799,988	9,274,858	525,130